

2019-3 経営協議会議事概要

日時 令和元年9月20日（金）13:30～15:40

委員 駒田学長（議長）

志田，高木，西岡，村本，渡辺

山本，緒方，尾西，梅川，伊藤(公)，伊藤(正)，大高 各委員

列席者 橋本，西村，松田，吉松，吉本，富本 各副学長

服部監事，山中監事

◎議事概要の確認

2019-2の議事概要(案)について，了承された。

I 審議事項

なし

II 報告事項

1. 令和2年度概算要求事項について

大高事務局長から，「資料：報-1-1」に基づき，令和2年度概算要求事項についての報告があった。次いで施設部長から，「資料：報-1-2」に基づき，令和2年度施設整備費概算要求事業についての報告があった。

2. 地域拠点サテライトの活動状況について

大高事務局長から，「資料：報-2」に基づき，地域拠点サテライトの組織体制についての説明があり，次いで尾西理事(伊賀サテライト長)，松田副学長(伊勢志摩サテライト長)及び地域創生推進課長から各サテライトのこれまでの取り組み及び今年度の方針や計画について，また，大高事務局長から共同研究の実績についての報告があった。

<主な意見>

○サテライトの取組みは，初めは難しいだろうと思っていたが，非常に実を結んできた。まだ時間はかかると思うが，その地域に大きな企業や事業が出て来て，一緒にやろうという若い人材が出てくるようになれば，地域に根差す大学としては素晴らしい影響だと思う。是非頑張っていたきたい。

○私学では，学生から教育のために学納金をいただいている。その他の補助金は5%程なので，それでどのように社会貢献するのかというと非常

に難しく、やはり教育第一と考えざるを得ない。だから、サテライトの取組みで、三重県の大学として全県各所に光を当て、地域の活性化に役立つ有益なことをされているのは本当に素晴らしく、非常に羨ましいと思う。

○取組みの継続のことを考えると、将来的な資金の問題が危惧される。東海国立大学機構のことなど、文部科学省としては国立大学の数を減らそうという流れであり、私学に至っては潰れる大学は潰れても構わないというようにさえ感じている。また、これから少子高齢化が進み、40年後には日本の人口は1億人を割り、労働者数も非常に少なくなり、高齢者が全人口に占める割合は40%に近づく。そうなると国の財政は当然厳しくなる。サテライトの資金が地域から出てくれば良いが、そうでないと将来行き詰まるのではないか。一番高いのは人件費であり、現在は国からの交付金に頼っているわけだが、将来、国の財政が厳しくなった時に、資金的な問題をどうしていくのかが懸念される。

→資金については、将来危惧される問題だと認識している。地域拠点サテライトの取組みの主な目的は学生の教育研究であって、地域だけのためにボランティアでやっているわけではない。もしそれがメインになってくれば、市町から資金をいただくことも当然考えなければいけない。まずは地域に根を下ろし、市町が価値を十分感じるようになれば、市町に資金をお願いするという段階になるかもしれないので、そのような基盤も作らなければいけないと思う。なお、地域拠点サテライトでの学生の教育研究については、県内県外を問わず、他大学の学生にも広く利用していただきたいと思っている。

○改めて、とても多様な取組みをされているのだと感じた。SDGsとよく似た概念で、CSV(Creating Shared Value)というものがあって、これは、色々な問題が起こり複雑化してくると、企業だけ地域だけではなかなか解決できないので、地域や大学や企業も一緒になって、共有する或いは共通する価値を創造していこうという考え方である。地域拠点サテライトの活動や重要性がもっと知れ渡れば、企業や行政が集まるようになり、更にこの取組みが大きくなって三重県のモデルのようなものができ、三重大学から発信されていくようになると、地域に根差した大学としてもっと注目されると思う。これだけのネットワークとベースがあるので、上手く発信して色々な人を巻き込んでいけると、三重県のみならず日本の色々な課題が解決できたり、新しいビジネスが生まれたり、更に発展性が出てきたりすれば本当に持続可能なサテライトになるだろうし、大学のとても大きな財産になると思うので、是非この取組みを深めていっていただきたいと思う。

→是非そのようにしていきたいと思う。実績の報告にあったように、共同研究に関しては企業も大学の方を向いていただいております、成果も上がりつつある。ただ、共同教育となるとこちらを向いてくれない。企業も良い人材が欲しいと思うので、今後、共同による教育をどのようにするかというのが大きな課題ではないかと思っている。

○素晴らしい取り組みだと感じた。中小企業との共同研究の実績を見ると県外の件数と金額が結構高いが、折角なので県内の共同研究が更に増えるといいと思った。三重大学には地域イノベーション学研究科があるが、このような学部や研究科を持つ大学はそれほど多くない。企業や地域や研究が混ざり合った時に新しい発想が生まれる可能性があり、また、学問と実践が一緒になっているところが伸びると思うので、地域や企業との連携が進むといいと思う。寄附講座はどのくらい設置されているか。

→医学部・医学系研究科に20ほどある。

○資金は大切なので、寄附講座のように企業と連携する仕組みは大事である。大学の研究が、企業にとって利益が上がるような商品化に繋がり、企業から「三重大学と一緒に共同研究をやりたい」とか「三重大学では寄附講座も作ってもらえる」と思われるようになれば、資金のことも人材育成のことも、本気で考えてもらえるようになると思う。

○静岡県は東部、中部、西部とあるのだが、西部から見ると東部は違う県のようにあり、あまり1つの県という感覚がしない。しかし、三重県は北から南まで距離はあるが、本当にどこも三重県という感じがする。それは、三重大学が研究面でもリーダーシップを執っているということをよく感じるからだと思うが、是非その特徴や長所を活かして全体を網羅し、更にそれを発展させ、牽引していくような、そういう良いモデルをいくつも作ってってもらいたい。特に、伊勢志摩サテライトの海女の研究はこれから目玉になっていくように思う。三重だからこそできる研究であり、地域の協力を得ながら研究を深め、それを世界に発信していけるようになれば素晴らしいと思う。

○サテライトのことで新聞記事に出ていたのは、残念ながら伊賀の忍者と伊勢志摩の海女文化だけだったと思う。大学に限らず政治や経済でもそうだが、その存在感や一生懸命頑張っている姿をどれだけ人々に認識してもらおうかということは大事である。三重大学の様々な取り組みを、地域や社会の人々にもっと認識してもらおうといったときには、その活動自体がいかにかその地域や地方に根を下ろした活動になっているかということと、広報が重要である。地道な活動を継続し、情報を上手く発信して地域の人たちに伝えていけば、4つのサテライトの知名度も上がり、頑張っていることを認識してもらえるようになると思った。

○サテライトは忍者と海女の研究が有名だが、もちろん伊賀は忍者だけではないし、伊勢志摩も海女だけではないので、何をどのように取り上げていくかという課題もある。ただ、活動が幅広になると総花的でうまく伝わらないということがあるし、何かに絞ってしまうと非常に狭い話になってしまうというジレンマがあって、どうしていくのが良いかというのはなかなか難しいが、そういったことにも注意すれば、活動自体に幅が出てくると思う。

→広報は重要である。予算的なこともあるのでなかなか難しいが、ホームページでしっかり情報を流すなど、情報社会に適応した広報の工夫を考えていかないといけないと思っている。いただいたご意見についてはそれぞれの部署毎に考えさせていただきたい。地域拠点サテライトは設置してから3年余なので、暖かくしっかり育てていきたい。

○地域拠点サテライトは西村副学長が中心になって作られ、まだ何年も経っていないが、ここまで良くなっているとは思わなかった。でも、その活動は、研究者や、サテライトに何かの形で参加されている方を除けばほとんどの県民が知らない。ここは、新聞社、テレビ、インターネットといったメディアをうまく使って、是非広めて欲しい。そうすれば参加してみようという企業も出てくるかもしれない。大学の先生と付き合いというのは、民間企業の方々、ましてや一般の方々にとっては、思っているよりも敷居が高い。NHKや中日新聞といった大手のほか、ミニコミ誌も活用するなど、是非、広報活動は力を入れていただきたい。

○先日、東京で物産展の三重県のブースに行ったら「三重大学カレー」を置いていた。他県ではそのような大学の物が出ているところはなかったので、良いことだと思った。

→広報は、国立大学が下手な部分であるが、三重県や企業とともに色々なところで大学の活動をアピールできればと思う。

○東紀州の柑橘農業などの地域振興を以前からされているが、そのことが地域拠点サテライトに繋がっているという部分はあるか。

→地域との連携を作ってきたことを地域創生推進チームに引き継ぎ、事務で支えてもらっている。プロジェクトが繋がっているのではなく、関係を繋げてその基盤の上に色々なことが繋がっており、10年ほどの歴史がある。

3. その他

(1) 次回開催について

2019年11月22日（金）13：30から開催することを確認した。

◎退任委員の挨拶

9月30日をもって三重大学医学部附属病院長を退任する伊藤病院長より挨拶があった。

Ⅲ 施設見学

1. 三重大学省エネ施設（設備）の視察

三重大学スマートキャンパスの風力発電施設及びガスコージェネレーションのガスエンジン設備，並びに改修した教職支援センターの視察を行い，施設部職員から説明があった。

以上